

【評価コメントを受けた普及指導課題への反映状況】

北部農と緑の総合事務所（課題名：能勢から始まる農の成長産業化） （評価コメント抜粋） ・都市近郊という強みを生かし、6次産業化や有機栽培等による高付加価値化を活用した農業振興策としては成果が上がっているが、今後の継続性や波及効果は課題として残るため、さらなる取組に期待する。 ・目標達成が6人という水準は必ずしも十分とはいえず、より幅広い農家の経営安定を支援していく必要があるのではないか。 ■引き続き、関係機関と連携し専門家派遣事業等も活用して、本課題の事例のような販売金額を目標以上に増加させた新規就農者をモデルに、新たに地元能勢町の若手の経営発展指向農業者の経営改善に向けた支援を行う。 ■R2年度のNo-1グランプリで実現資金を獲得した者の「環境に配慮した農産物販売の共同化」等、より幅広い課題への取組を支援することにより、農業者同士の自主的な働きかけ等を促進するとともに、意欲の高い農業者の経営改善を支援する。

中部農と緑の総合事務所（課題名：いちご観光農園を中心とした農業経営強化支援） （評価コメント抜粋） ・本課題の農園を対象とした普及指導の経験を蓄積し、経営モデルとして管内に波及させていくことが求められる。 ・農業振興を行う策として、観光農園は一つの方法であり、モデルケースについては成果が上がっているが、今後の波及効果は課題として残るため、さらなる取組に期待する。 ■モデル農家での生産力強化のため、簡易センシング機器によるデータ収集等を実施し、データ解析技術やデータに基づく栽培環境の改善を図り、今後同じような経営を行っている農家にスマート農業の導入・普及を進めていく。 ■管内いちご生産者を対象とした研修会、交流会を実施し、モデル農家の多角経営事例を共有し情報交換等行うことで、個々の農園独自のブランド力向上を図る。 ■6次化に係る研修会を実施し、都市近郊の環境を活かした観光農業の充実や、自家直売所・ネット販売の導入による販売促進など多角経営を支援することで、より魅力ある農園となるよう支援する。

南河内農と緑の総合事務所（課題名：府内唯一の村を再びいちご産地に ～いちごの新規就農者とブランドいちご「ちはや姫」の誕生～） （評価コメント抜粋） ・今後は、地域の人たちや府内消費者との交流・連携が生まれることを期待する。 ・本件は地域の特産品であるいちごの生産を中心に地域の農業振興の一翼を担う取組となっている点は評価できる。施策にあたっては費用対効果の面の検証が不可欠でありさらなる農業振興のための継続的な取組に期待する。 ■本取組は町・村・JAとの連携が重要であり、引き続き役割分担を行いながら、取り組んでいく。 ■いちごアカデミーを修了した新規就農者に対しては、町・村・JAと連携し、地域農業の担い手として安定した経営ができるよう、栽培技術の向上、収量・品質の向上を支援する。 ■今後は、就農地を南河内地域全域に拡大して地域農業の担い手を引き続き育成する。 ■生産者が主体となったSNS等による南河内いちごのPR活動を支援し、地域特産物として農産物直売所への来客等の交流につなげる。
--

泉州農と緑の総合事務所（課題名：泉州農業を牽引するモデル的な農業者の育成） （評価コメント抜粋） ・モデル的な農業者の育成（個別指導）を通じた活動展開により、今後の産地強化（面的指導）活動への取組に期待したい。 ・本件は、泉州なすやきくな等、地域の特産品の生産を中心に、地域の農業振興の一翼を担う取組となっている点は評価できる。施策にあたっては費用対効果の面の検証が不可欠であり、さらなる農業振興のための継続的な取組に期待する。 ■引き続き、経営拡大意欲を有する農業者に対して、各自の課題に応じた丁寧な支援を実施するとともに、新規就農者など今後の発展が期待される農業者に対しても、積極的に技術指導や情報提供を行い、底上げを支援する。 ■泉州水なすなど主力品目について、先進的農業者をモデルとして、栽培技術のデータを共有化することで産地のレベルアップを図り、販売額の向上を検証しつつ、産地強化（面的活動）と重点指導対象（個別指導）の相乗効果の発揮をめざす。
--